

# 那珂川町国際交流事業 国際交流体験 報告

国際学部1年 松本 愛未

2022年10月8日、那珂川町主催の国際交流体験が開催された。那珂川町は毎年中高生を対象に海外訪問を行っていたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響でここ数年は実施を見送ってきたとのことだった。そこで、それに代わるものとして、私たち HANDS Jr. に国際理解・異文化交流につながるイベントの企画をしてほしいとの依頼があった。「異文化に触れる」「世界について考える」という二つをテーマに企画を考えた。

「異文化に触れる」ということで、留学生による出身国紹介、アメリカの学校紹介、民族衣装体験などを行った。特に留学生のコーナーは大変盛り上がった。留学生が教えてくれた簡単なあいさつや単語を子どもたちは繰り返し言い、違った生活様式に驚きの声があがるなど異文化に興味をもってくれた。民族衣装体験では、カラフルな衣装を身にまとい、笑顔でお互いの写真を撮っていた。特にチマチョゴリの人気が高かったのが印象的だった。

二つ目の「世界について考える」の企画は、苦労したことの一つだった。小学生から高校生までの幅広い参加児童・生徒たちに楽しみながら世界について考えてもらうにはどうすればよいのかととても悩んだ。しかし、大学生であるメンバーがただ一方的に誘導するのではなく、自発的に考えてもらうことが理想だと考えた。話し合いを重ね、貿易ゲームというゲームをする

ことにした。これは、一グループを一国として、各国によって量の異なる与えられた道具（文房具）と材料（紙）で、指定した製品を作りお金を稼ぐゲームだった。参加者は作業しているうちに各国に与えられたものの量が違うことに気づく。そして、国同士で交渉（貿易）をしていく。「そういうことか!」と参加児童・生徒たちが知恵を働かせて自主的に動く姿が見られた。このゲームを通して、国同士の協力の大事さを一緒に感じる事ができた。小学生にとっては少々難しい内容だったが、年上の中高生がサポートしてくれたことで楽しんでくれたようだった。そのような姿を見ることができて大変うれしかった。

子どもたちの外国や世界の興味への興味を広げることが少しでもできたのではないかと感じている。子どもたちが様々な価値観や発見を得られる、そんなきっかけになる活動をこれからも続けていきたいと思う。

